

令和4年度（2022年度）北海道優良品種認定審議会 議事録

と き 令和5年（2023年）2月15日（水）14:00～
ところ 第二水産ビル 4S会議室

1 開会

【牧野農産振興課長】

皆様、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。御案内の時刻になりましたので、ただ今から、令和4年度北海道優良品種認定審議会を開催いたしたいと思っております。

私、北海道農政部農産振興課長の牧野と申します。しばらくの間、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の審議会は、会場での参加とオンラインでの参加を組み合わせた開催となっておりますので、何点か留意点をお伝えいたします。会場にお越しの皆様は、会場ではコロナ対策のため、定期的に換気を行います。多少寒く感じられることがありますが、どうかあらかじめご了承ください。Web一般傍聴者の方につきましては、カメラとマイクを常にオフにして頂きますようお願い申し上げます。

それでは、優良品種認定審議会を開催させていただきたいと思っております。開会にあたりまして、北海道農政部生産振興局長の新井より、御挨拶申し上げます。

2 挨拶

【新井生産振興局長】

道農政部の新井でございます。令和4年度北海道優良品種認定審議会の開催にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。まず、本日は御多忙の中、また、大変寒い中ですね、委員の皆様御出席いただきましたことを感謝申し上げます。また、皆様方におかれましては、日頃より本道農業・農村の振興に御尽力いただいておりますことに、改めて御礼申し上げます。

さて、昨年の本道農業ですけれども、昨年6月以降、断続的な降雨などによりまして、小麦やてん菜の収量がですね、平年を下回ったものの米の作況は全国で唯一106の「良」となるなど、良好な作柄となったところです。厳しい気象条件下もございましたが、豊穰の秋を迎えられたことはですね、生産者の皆様、関係者の皆様の並々な御尽力によるものであり、深く感謝申し上げます。

当審議会でございますけれども、御承知のように「北海道主要農作物等の種子の生産に関する条例」に基づきまして、優良品種の認定、あるいは取消しにつきまして、御審議をいただく場として設置しております。先般、人事異動などに伴う委員の改選がございまして、今回、10名の委員の方々のうち、4名の方に新たに御就任いただいたところでございます。本審議会にて審議します「優良品種」については、栽培上や利用上の特性に優れ、道内に普及すべき品種として、本道農業の持続的な発展に欠かせないものであり、本日は、1月に開催されました「北海道農業試験会議」において、優良品種候補とされた9品種と、認定取消し候補とされた14品種について、それぞれ御審議をいただきます。

本日は、昨年度と同様に対面とリモートを併用した開催としておりますけれども、皆様方におかれましては、それぞれのお立場から、忌憚のない御意見を賜ればと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。限られた時間ではございますが、御審議の程、よろしくお願い

い申し上げ、御挨拶といたします。どうぞよろしく願いいたします。

3 委員等の紹介

【牧野農産振興課長】

ありがとうございます。それでは、まず、本審議会のですね、委員の御紹介をさせていただくと共に併せて、この度の異動で新たに御就任いただきました委員の皆さまについて御報告をさせていただきたいと思えます。

最初に北海道大学農学研究院教授でございます貴島会長でございます。

【貴島会長】

貴島です。よろしく願います。

【牧野農産振興課長】

続きまして、江別保健所管内栄養士会、会長の石井副会長でございます。

【石井副会長】

よろしく願います。

【牧野農産振興課長】

続きまして、対面で開催されております北海道種苗協同組合理事長でございます、寺岡理事長でございます。

【寺岡委員】

寺岡です。よろしく願います。

【牧野農産振興課長】

続きまして、Web 出席いただいております、北海道農産物集荷協同組合、鈴木委員でございます。

続きまして、また、Web 出席いただいております、札幌みらい中央青果株式会社、木下委員でございます。よろしく願います。

続きまして、伊佐委員、大西委員、谷口委員、藤井委員が人事異動で委員を辞任され、新たに4名の委員の皆様にご就任をいただきましたので、御紹介をさせていただきます。はじめに、五藤委員でございます。

【五藤委員】

五藤です。よろしく願います。

【牧野農産振興課長】

五藤委員は、一般社団法人北海道農産協会で、専務理事をされています。

続きまして、吉村委員でございます。吉村委員は、北海道指導農業士をされています。

【吉村委員】

吉村でございます。よろしく願います。

【牧野農産振興課長】

続きまして、跡部委員でございます。跡部委員は、ホクレン農業協同組合連合会で、種苗園芸部長をされています。本日はWebで御出席をいただいております。

続きまして、関委員でございます。関委員は、独立行政法人家畜改良センター十勝牧場の場長をされています。本日は御欠席となっております。

また、委員名簿にございますとおり北海道農業協同組合中央会農業対策本部長であります平田委員がいらっしゃいますが、本日、改良センター十勝牧場の関委員と同様、御欠席となっていることをご報告いたします。それでは、委員の皆様、どうぞよろしく願います。

次に、本日、優良品種候補の説明を行う地方独立行政法人北海道総合研究機構農業研究本

部の出席者をご紹介します。はじめに、中央農業試験場、鈴木作物開発部長です。

【鈴木作物開発部長】

鈴木です。よろしくお願いします。

【牧野農産振興課長】

続きまして、酪農試験場の杉本草地研究部長でございます。

【杉本草地研究部長】

杉本です。よろしくお願いします。

【牧野農産振興課長】

最後に道農政部の出席者を紹介します。先程、御挨拶いただきました道農政部新井生産振興局長です。

【新井生産振興局長】

よろしくお願いします。

【牧野農産振興課長】

農政部技術普及課松井首席普及指導員でございます。

【松井首席普及指導員】

松井です。よろしくお願いします。

【牧野農産振興課長】

農政部農産振興課山本主幹です。

【山本主幹】

山本です。よろしくお願いします。

【牧野農産振興課長】

よろしくお願いします。

4 委員の出席状況報告

【牧野農産振興課長】

次に、委員の出席状況を報告でございます。本日は委員10名のうち、8名の委員が御出席されておりますので、「北海道主要農作物等の種子の生産に関する条例」第20条第2項の規定によりまして、委員の1/2以上の出席がされておりますので、本日の審議会が成立することを御報告申し上げます。

5 諮問

【牧野農産振興課長】

次に、「北海道主要農作物等の種子の生産に関する条例」第17条に基づく諮問でございます。

新井生産振興局長から会長へ諮問書をお渡ししたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

～新井生産振興局長から貴島会長へ諮問書を手交～

【牧野農産振興課長】

ありがとうございます。委員の皆様には「写し」を事務局からお配りさせていただいております。

また、オンライン出席の委員の皆様には、パソコン画面に表示をさせていただいております。

すので、表示されているか御確認をお願いいたします。表示されていない場合は、挙手でお知らせください。

よろしいですね。よろしくお願いいたします。

～諮問書が委員の手元に行き届く～

【山本主幹】

それでは、お手元の諮問書をご覧ください。諮問書の話しをさせていただきます。本審議会に諮問いたします、「北海道農作物優良品種の認定及び取消し」について、諮問の趣旨や、優良品種の認定（案）、優良品種の認定取消し（案）について、御説明をいたします。

まず、諮問書の1枚目、下の方に諮問理由が記載されてございます。諮問は、「北海道主要農作物等の種子の生産に関する条例」第8条第1項の規定に基づく優良品種の認定、並びに同条第4項の規定に基づく認定の取消しにあたり、本審議会の意見を求めるものでございます。

続いて、2ページ目、2枚目、諮問の趣旨が記載されてあります。記載の趣旨の中ほどからですが、先ほど述べました、条例において、知事は道内に普及すべき主要農作物等の優良な品種を認定できるとされております。当該品種の認定に当たって、知事は、あらかじめ、北海道優良品種認定審議会の意見を聴くこととされ、また、認定の取消しに当たっても、認定の手続きを準用することとされていることから、本日、諮問書に記載されておりますとおり、9品種の優良品種認定（案）、そして、3枚目のほうになりますけれど、優良品種の認定取消し案について、本審議会の意見を求めるものでございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。以上です。

【牧野農産振興課長】

はい、ありがとうございます。それでは、今後の進行につきましては、貴島会長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいたします。

【貴島会長】

貴島です。よろしくお願いいたします。それでは、ただ今の諮問を踏まえ、次第に沿って、議事を進めて参りますので、よろしくお願いいたします。

6 議事

(1) 北海道農作物優良品種の認定（案）について

① 水稻「空育195号」

【貴島会長】

それでは、議事の(1)、北海道農作物優良品種の認定（案）について、審議をいたします。今回、知事から諮問のあった品種は9品種です。水稻、畑作物、飼料作物の順に説明していただき、審議することとします。

始めに、水稻「空育195号」について、御説明をお願いいたします。

【鈴木作物開発部長】

それでは「空育195号」について、御説明します。まず、1ページ目の特性の概要、来歴

をご覧ください。「空育195号」は、中央農業試験場において、中食、外食用途に適する極多収品種の育成を目標に交配、選抜を行い、育成された系統です。中食とは、コンビニ弁当や冷凍チャーハンなど、また、外食は、レストランなどでの利用を指します。

続いて、(2)の特性について御説明します。1ページ目下の表の1を御覧ください。こちらは、令和元年から4年の普及見込み地帯述べ59箇所 の平均値を示したものです。左から2番目、出穂期なのですけれども、出穂期は「きらら397」とほぼ同等で、成熟期は、「きらら397」の9月12日に対して、9月14日と2日遅くなっております。また隣の桿長は、「きらら397」の66センチに対して、73センチと少し高くなっています。少しだけ成熟する期間が長く、丈が高い、つまり体が大きいことで多収となっています。右から2番目の精玄米重比率のところをご覧ください。こちらについては、「きらら397」と比較して、118%となっています。「きらら397」より18%の多収であるということが1つ目の長所となっています。

続いて、次のページの表の2番をご覧ください。「空育195号」は、「きらら397」と比較するとタンパク質含有率は、「きらら397」が7.3%に対して、6.2%ということで1ポイント程低く、アミロース含有率は逆に「きらら397」が20%に対して、21.4%と1ポイント程高くなっています。食味評価総合値でいくとほぼ、「きらら397」と同等なのですが、玄米品質のところ、白色不透明粒率というのがあるんですけど、これが「きらら397」が8.8%、「そらゆき」が5.5%に対して、11.8%とやや高く、これに起因して、検査等級、あの、玄米品質がやや劣るという傾向があります。これが短所となっています。

続いて、表の3番をご覧ください。「空育195号」は、少し草丈が高く、多収であるということから1番左側の耐倒伏性はやや弱くなっています。そのため、適切な施肥に努める必要があります。また、いもち病抵抗性については、葉いもち圃場抵抗性、穂いもち圃場抵抗性ともに強くなっており、「きたくりん」などと同様に、本田の薬剤防除が必要となっています。これが、もう一つ目の長所となります。

続いて、3番目の長所及び短所ですけれども、以上のことより、長所は、多収であること、もう一つがいもち病抵抗性が強いことです。短所については、玄米品質がやや劣るとなっています。用途については、主食用です。

続いて、候補理由については、読み上げさせていただきます。

米の消費量に占める中食・外食の割合は、国内の主食用米の消費量が減少しているなか、増加傾向にあり、約30%を占めています。このため、米の消費において中食・外食需要は、重要な位置づけとなっています。食料・農業・農村基本計画では、実需動向に基づく生産体制構築のために、加工や中食・外食需要へ対応した米生産の推進が求められています。しかし、近年、中食・外食需要を満たす「値頃感があり、安定した数量を確保できる」米というものが不足しています。また、一方で、生産現場では、農業従事者が減少・高齢化しており、省力・低コスト栽培などによる生産効率の向上と実需者ニーズを満たす米の生産体制の構築が課題となっています。また、みどりの食料システム戦略では、「持続的な農業」を目指す観点から、化学農薬等の使用量削減が求められています。しかし、現行の中食・外食向け品種である「きらら397」は、収量性、耐冷性及び耐病性が不十分であり、耐冷性と耐病性を改善した「そらゆき」についても、生産者の所得向上が期待できる収量性は有していませんでした。生産者、実需者、そして社会のニーズに応えるためには、さらに収量性に優れ、安定生産可能な中食・外食需要に適した品種が必要でした。「空育195号」は、「きらら397」、「そらゆき」に比べ収量がかなり多く、普及見込み地帯において安定した収量性を示しております。食味特性は「きらら397」、「そらゆき」並で中食・外食向けでの使用に適しております。また、いもち病抵抗性が強く、「きたくりん」と同様にいもち病の本田薬剤防除が不要となるため、生産コストを抑えられるとともに、化学農薬による環境負荷を軽減できま

す。以上のことより、「空育195号」を中食・外食向け品種として普及させることにより、北海道内外の中食・外食需要に応えるとともに、北海道米の生産振興及び持続可能な農業の実現に貢献すると考えております。

3の普及については、栽培適地は北海道のうるち米作付地帯全域。普及見込み面積については、「きらら397」、「そらゆき」の全面置き換えで8,000haを見込んでいます。作付総面積の8.4%にあたります。また、北海道農業試験会議における判定は、普及奨励事項です。その他の特記事項については、こちらの品種、粒厚が他の品種よりちょっと厚めで、篩から落ちにくいという性質もありますので、先程、説明した着色、未熟粒、白色粒が残る場合があるために、必要に応じて、色彩選別を行うということ。また、2番目として、出穂期は「きらら397」とほぼ同じなんですけれども、成熟期がやや遅いので、適期移植に努めるとともに、北海道水稲優良品種作付指標における地帯区分3及び4、ちょっと寒い方の地域では、成苗ポット苗による移植栽培や側条施肥など、生育を促進する栽培法を励行するとなっています。また、対倒伏性がやや弱であるため、倒伏防止の観点から北海道施肥ガイドに基づき、適切な施肥に努める。4、周囲にいもち病多発圃場等感染源がある場合は、基幹防除を実施する。また、採種圃におけるいもち病防除対策は既存品種に準じるとなっています。

最後の5番に参考データが載せてありますが、これが「空育195号」の実需評価結果概要となっています。まず、A社の搗精試験では、令和3年、4年ともに「きらら397」並み。B社の冷凍米飯加工では、白米、炒飯ともに「きらら397」並み。C社の炊飯加工については、令和3年のみ、白飯で並からやや劣るという評価だったんですが、それ以外は、「きらら397」並み。

D社の回転寿司についても「きらら397」並み。E社の牛井と井適正については、令和4年並みからやや劣ると書いています。A社研究所食味分析値及び官能評価では、並みということで、ほぼ「きらら397」と同じように使えるというふうに考えております。私からの説明は以上です。

【貴島会長】

鈴木部長どうもありがとうございました。それでは、御質問、御意見を伺いたいと思います。会場にお越しの委員の皆様もオンラインで出席の委員の皆様も御意見等がございます場合には、挙手をお願いいたします。

会場にお越しの委員の皆様には、事務局からマイクをお渡ししますので、マイクで御発言をお願いします。またオンラインで出席の委員の皆様も手を挙げていただければ、こちらから指名させていただきますので、指名されましたらマイクをオンにして、御発言いただくということをお願いいたします。

それでは、御質問、御意見等がある委員の皆様は、挙手をお願いいたします。

～吉村委員が挙手～

【貴島会長】

はい。吉村委員。

【吉村委員】

ありがとうございました。私初めてなので、とんでもない変な質問するかもしれないのですけれども、お聞きしたいことがあります。お話を伺った限りでは、今作っている「きらら397」と「そらゆき」に変わる可能性がある品種だということをお聞きしました。数値的に見ても、タンパク値が6.2っていうのは、私たち素人の生産者から見ると、かなり美味し

いんじゃないかっていうふうにするんですけども、食味試験のところでは、「きらら397」と同じかそれよりも劣るっていうふうに出たんですけども、食べてみたことがないのでわからないんですけども、その、美味しさっていう感じではどうなのでしょう？それとも粘りがあるのかなのか、パサパサしているのか、そういう、そこら辺の食味を食べてみた方からお聞きしたいんですけども。

【鈴木部長】

はい、ありがとうございます。この「空育195号」、アミロース含有率がちょっとだけ高いということで、アミロース含有率が低いと「ななつぼし」とかもちょっと低い「ゆめぴりか」みたいにもちもちした感じになるんですけども、これはどちらかという、そういうタイプではないんですけども、タンパクが低いということで、タンパク質含有率が低いと柔らかく感じるんですよ。それでちょっともちもち感が代わりに柔らかいっていうところで、食べた感じが「きらら397」と同じというふうになっているんですけども、ちょっと「ゆめぴりか」とか、その辺りとは全く違う食味かなというふうに考えております。

【吉村委員】

わかりました。ありがとうございます。

【貴島会長】

ありがとうございます。
その他ご意見ありますか。

～五藤委員挙手～

【貴島会長】

はい。五藤委員。

【五藤委員】

優決のほ場で何年か見させていただいているんですけども、先ほど鈴木部長言われたとおり、非常に体がしっかりしているっていうことで、ある程度の年はしっかり収量性が確保できるんだらうなということで思っております。そういう意味で、置き換えということで、中食、外食の部分でこれから期待できる品種だということでもありますし、また一般ほに落ちていく中ではですね、先ほど特記事項の中にもありましたように、いろいろ普及事例の中でですね、また道総研さん、それから普及所の皆さんと協力しながら、農産協会の方でもですね。一緒になって、指導・普及していきたいという期待の品種かと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。

【鈴木部長】

はい。よろしく申し上げます。

【貴島会長】

その他ございませんか。

～挙手なし～

【貴島会長】

次は、私からよろしいでしょうか。

この候補品種は、生産者にとって従来の「きらら397」より随分メリットがあるということで、いくつかの生産上の優位さを述べていただきましたけれども、玄米品質に限っては、多少その難点もあるという、それは生産者にとっては、作り方を工夫するというところで改善することはできるのでしょうか。

【鈴木部長】

あまり多肥にしないということが、非常に大事で、穫れるからということで、どんどん肥料をやってしまうと、穫れはするんですけども、その分白色未熟粒が多くなってしまいうことががあるので、その辺りは農業改良普及センターの皆様にご指導いただきながら、普及していきたいというふうに考えているところです。

【貴島会長】

そうすると施肥量も抑えられるということですね。

【鈴木部長】

そうですね。施肥標準に従って作っていただくというふうに考えています。

【貴島会長】

ありがとうございます。
他に御意見ありませんでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

なければ、この「空育195号」、優良品種としての認定に関して、特段の異論はないということにしたいと思います。
ありがとうございました。

② 小豆「十育180号」

【貴島会長】

では続きまして、小豆「十育180号」について、御説明を引き続き鈴木部長お願いいたします。

【鈴木部長】

はい。それでは、「十育180号」について、御説明します。

まず、特性の概要、来歴のところからです。「十育180号」は、十勝農業試験場において、「十育165号」と胚軸長が長い「十育161号」を交配し、機械収穫適性を持たせるために、胚軸長が長い小豆を選抜・固定した系統です。

(2) 特性については、表の1番をご覧ください。特性一覧の真ん中あたりに子実重対比というのがあるんですけども、こちらをちょっとご覧ください。「きたろまん」を100としたときに、「十育180号」は十勝農試、育成地では子実重対比が92で、普及見込み地帯では94というふうになっています。この子実重がやや少ない特性というのが短所となっています。

次に下の抵抗性の欄をご覧ください。抵抗性の欄に茎疫病というのがあるんですけども、「きたろまん」がレース1抵抗性なのに対して、「十育180号」はレース1、3、4全てに抵

抗性を持つということで、広い範囲の茎疫病の種類に抵抗性を持つということが長所の一つです。

ちょっと順番が前後して申し訳ないんですけども、ちょっと上の方の子実重の上、ちょっと上に地上10cm莢率の数字があるんですけども、そちらを御覧ください。この地上10cm莢率というのは、地際から10cmの高さの間に莢が1本でも含まれているとカウントすることになっているんですけども、これが「きたろまん」が12.8%対して2.2%と少なくなっています。この地上10cm莢率が少ないということで、ちょっとめくっていただいて7ページをご覧ください。地上10cm莢率少ないことで、図の1番、ダイレクト収穫における収穫損失を示したものでんですけども、コンバインで収穫したときに、例えば「きたろまん」の20%ぐらい収穫損失が出てしまうような場合でも、この「十育180号」は5%以下の収穫損失になっています。

図の2番については、黒い棒グラフのところは手刈り、同じ畑のものを手刈りしたところで、白い棒グラフがコンバインで収穫したものになっているんですけども、この白い棒グラフについては、全て「きたろまん」よりも収量が多くなっています。このコンバイン収穫適性があるというのが長所の一つとなっています。

では、6ページに戻っていただいて、長所及び短所です。長所及び短所について、長所は地上10cm莢率が低く、コンバインによるダイレクト収穫に適すること。また、茎疫病レース1、3、4抵抗性があるというのが長所です。短所については、手刈りの子実重がやや少ないとなっています。

用途はあん及び和菓子原料用です。

候補理由については読み上げさせていただきます。北海道産小豆は国内生産量の93%を占め、実需者からは高品質と評価され、安定供給が求められています。一方、小豆の10aあたり投下労働時間は長く、特に収穫作業は4.2時間と、大豆の1.9時間と比較して2倍以上の時間を要しています。

現在、小豆では収穫損失を抑えるためにピックアップ収穫というのが主流なんですけれども、収穫作業に時間がかかることから、より省力的なコンバインによるダイレクト収穫への関心が非常に高くなっています。しかし、ダイレクト収穫に用いられるリールヘッドコンバインというのは、刈り刃の高さを10cmより低くすることが難しく、既存品種では着莢位置が低いと、収穫損失が多くなりやすいことが課題でした。

「十育180号」は、胚軸長が「きたろまん」より長く、地上10cm莢率が低いことから、ダイレクト収穫による収穫損失が安定して少ないです。普及見込み地帯における手刈り子実重は「きたろまん」より少ないですが、実規模栽培試験のダイレクト収穫における収量は多い結果となっています。また、「十育180号」の成熟期及び耐倒伏性は「きたろまん」と同程度で、同様の落葉病抵抗性、萎凋病抵抗性を持っています。さらに、茎疫病についても、レース1、3、4と現在畑にある茎疫病は、全てに対して抵抗性を有しています。実需者による加工適性評価は「きたろまん」と同等です。

以上のことから、「十育180号」を「きたろまん」の一部に置き換えて普及することで、北海道における小豆の省力安定生産に寄与できると考えております。

3番の普及については、栽培適地は、北海道の小豆栽培地帯の早生種栽培地帯、早・中生種栽培地帯と中生種栽培地帯、また、これに準ずる地帯となっています。

普及見込み面積については、現在コンバイン、ダイレクト収穫ができる機械を持っている「きたろまん」の農家さんを中心に試算しまして、5,000haで、今の作付面積の26.3%というふうに考えております。北海道農業試験会議における判定は、普及奨励事項です。

その他特記事項については、手刈り子実重はやや少ないが、ダイレクト収穫では収穫損失が少なく、収量が確保できる。また、落葉病、茎疫病、萎凋病に抵抗性を持っている

ですけれども、栽培に当たっては適正な輪作を守ってくださいというふうになっています。

続いて7ページの表の2番に製品試作試験における評価があります。「きたろまん」と比較した評価については、A社、B社、C社、D社、E社、5社ともすべて3、「きたろまん」と全く同等という評価をいただいているということになっています。

私の説明は以上です。

【貴島会長】

鈴木部長、説明ありがとうございました。

それでは、御質問、御意見をお願いしたいと思います。

～寺岡委員挙手～

【貴島会長】

どうぞ。寺岡委員。

【寺岡委員】

すみません。機械のことがよくわからないんですけれども、この小豆はダイレクト収穫に向くということなんですが、ピックアップ収穫の機械しか持っていない人は収穫は難しいということでしょうか。

【鈴木部長】

ピックアップでも収穫はできるんですけれども、ピックアップ収穫だと、何て言うんでしょう、地際をずっと刈って行って刈りとるので、やっぱり「きたろまん」と比べるとちょっと収量が低くなっちゃうかもしれないですけど、コンバインだと確実に収量は穫れますよということになっています。

【寺岡委員】

それでは、ピックアップ収穫の機械しか持っていない人でも、工夫次第で収穫できるという。

【鈴木部長】

そうですね。工夫次第で収穫はできるんですけど、どちらが穫れるとかその辺りは考えていただいてということになっております。

【寺岡委員】

ありがとうございます。

【貴島会長】

その他、御意見、御質問はありませんか。

～五藤委員挙手～

【貴島会長】

五藤委員。

【五藤委員】

本当にこれがうまくいってですね、普及した場合、画期的な品種なのかなということですね。

待をしております。小豆の需給環境、色んな国際的な状況もあってですね、なかなか輸入が入ってこないというような状況になっておりますので、小豆の作付推進、来年以降に向けてということで求められている状況にあります。

そんな中でやっぱり産地としては、まず特に収穫の手間ですとか作業性が非常に課題になっておりますので、これが入ってですね、うまく普及できれば、本当にそういった小豆の生産性なり生産者の作業面で本当に楽になるだろうなと思っておりますので、これが本当にうまくいくことを期待しております。

【鈴木部長】

ありがとうございます。

【貴島会長】

ありがとうございました。その他御意見、御質問ありませんか。

～挙手なし～

【貴島会長】

小豆の流通に関わっておられる鈴木委員、ご意見ありませんでしょうか。

【鈴木委員】

はい。聞こえていますか。

【貴島会長】

はい。聞こえています。

【鈴木委員】

小豆の作付面積、今北海道では安定していないと聞いておまして、そういう面からいって、小豆の作付を増やすという面では作業効率が良い品種が出てくるっていうことは、すごく良いことだなと思っております。あと今道内では、主力だった「エリモショウズ」に変わって、「きたろまん」の普及がほとんどされてきたということも聞いておまして、そんな中で、一部の地域とはいえ、どのような形でこの新しい品種が受け入れられていくのかなっていうのもちょっと考えたりするところです。ただ、秋まき小麦を作付している地帯、地域では、早生系の小豆の品種は受け入れられやすいのかなっていうふうにも考えられるかなと思ったりもします。ちょっとつぶあんの製品試作試験で風味が強いついていう部分コメントされていますが、これは表皮が厚いせいなのかなと。この辺が実需者の方々に、どのように受け入れられていくのかなっていうところかなと思います。私の方からは以上です。

【貴島会長】

ありがとうございました。

その他、御意見ありませんでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

普及見込みが5,000haということですが、今後この品種が普及する場合に、他の地域でのコ

ンバインの普及っていうのを伴うかもしれませんよね。

【鈴木部長】

そうですね。今のところは、もう既に小豆のダイレクト収穫をやっている地域がありますので、その道東のコンバイン収穫機械を持っているところから普及が始まっていくかなというふうに考えております。

【貴島会長】

そうすると、この5,000haよりも、もう少し増える可能性もあると。

【鈴木部長】

そうですね。成績会議でもちょっと議論になっていたんですけども、大豆を今コンバイン収穫されている方とかで、小豆を入れる場合に、この品種だと入りやすいのかなというふうには考えています。

【貴島会長】

ありがとうございます。その他御意見ございますか。

～挙手なし～

【貴島会長】

ないようであれば、ただ今の「十育180号」を優良品種としての認定に関して、特段の異論はないといたします。

ありがとうございました。

③ いんげん「十育A65号」

【貴島会長】

それでは次に、いんげんの「十育A65号」について御説明を鈴木部長お願いします。

【鈴木部長】

いんげん「十育A65号」について、御説明します。まず来歴についてです。来歴については、耐倒伏性に優れる手亡品種の育成を目標として、十勝農業試験場において交配、選抜し、育成した系統です。

特性については、表の1を御覧ください。上の方から2番目ぐらいに倒伏程度、育成地の数値でご説明します。倒伏程度については、「雪手亡」が3.1に対して、数字が小さい方が倒伏しないことになるんですけども、「十育A65号」は1.8となっています。またその次の葉落の良否というところは、数字が小さい方が葉がよく落ちることですけども、「雪手亡」の3.3に対して、「十育A56号」は2.0ということで、成熟期にもう既に葉っぱがたくさん落ちるといような性質を持っています。

続いて、一番下の未吸水粒重率というところをご覧ください。こちらはあんこを作るときに、お水を吸わせたときに吸水しない粒がどれくらいあるかというものなんですけれども、これも「雪手亡」の3.0に対して、「十育A65号」は0.5となっています。収量などは育成場ではちょっと穫れてるんですけども、全道全土を押し並べてみると100、大体「雪手亡」と同じくらいとなっています。

それでは次のページ、10ページ目をご覧ください。こちらについては長所及び短所なんですけれども、長所のみで、倒伏の発生が少ないということと、成熟期の葉落ちが優れるというこの二つが長所となっています。短所についてはありません。用途はあん及び和菓子用となっています。

候補理由については読み上げさせていただきます。北海道における手亡類の栽培面積は近年1,000～2,000haで推移し、2021年度では1,490haとなっています。海外産手亡類が一定量輸入されているものの、加工食品の原料原産地表示が義務づけされたことから、国産原料の90%以上を占める北海道産手亡類の位置づけは、ますます重要となっています。

一方、近年、手亡類は成熟期前後の降雨によって屑粒、発芽してしまったり、腐ってしまったりする粒が多発し、特に倒伏による被害増大が問題となっています。また、降雨被害を避けるために、成熟後速やかに適期収穫することが望ましいんですけども、手亡類というのは成熟期の葉落ちがすごく悪くて、莢が熟していても、葉が残っているというのが結構多いんですが、機械収穫すると生の葉っぱが脱穀部に取込まれると、種皮へ茎葉の断片がくっついちゃったり、葉っぱの汁液が付着する汚粒というものが発生します。一方、葉落ちが進むのを待つと収穫遅れによって雨に当たったりして屑粒の発生リスクが高まります。主要栽培品種の「雪手亡」は、これらの問題に加え、あん加工時の煮えむらを引き起こす未吸水粒が発生しやすいということも問題となっていました。以上の理由より、倒伏の発生が少なく、成熟期における葉落ちが優れ、加工適性も備えた手亡品種が強く要望されていました。

「十育A65号」は、「雪手亡」よりも倒伏の発生が少なく、適期収穫に必要な成熟期の葉落ちが優れています。成熟期は「雪手亡」よりも4日早く、子実重は「雪手亡」と同等で屑粒の発生がやや少ないです。また、粒形及び粒色は「雪手亡」と同様に、製あん適性は同等からやや優れる評価が多く、あんの煮えむらによる品質低下を引き起こす未吸水粒の発生も少ないです。

以上のことから、「十育A65号」を「雪手亡」に置き換えて普及することで、北海道産手亡類の生産安定化に寄与できると考えております。

3の普及については、栽培適地は北海道のいんげん栽培地帯の地帯区分I及びこれに準じる地帯。

普及見込み面積は、「雪手亡」の全面置き換えで、1,300haを見込んでいます。これは、金時類の19.4%にあたります。

北海道農業試験会議における判定は、普及奨励品種となっております。その他の特記事項はありません。

11ページ目の参考データをご覧ください。これは、「十育A65号」のあん製品試作試験の評価結果なんですけれども、こしあんのD社1社だけがやや劣るというふうにしているんですけども、それ以外は、2社が「雪手亡」並み。そして、4事例で「雪手亡」より勝るという評価をいただいております。これは本当に「雪手亡」より全て上回って製品も良いというかなり期待できる品種だというふうに考えております。以上です。

【貴島会長】

鈴木部長ありがとうございました。

それでは、いんげん「十育A65号」について御質問御意見お願いいたします。

～石井委員挙手～

【石井委員】

石井です。消費者の角度からしますと、製あんに適した品種っていうのは、これからとても

期待できると思うんですね。そして、農家さん高齢化している中で、すごくいい状態で、収穫し易いというのは、消費者の立場からしても良いなと思ひまして。ぜひ、粒あんをベターっというの、これからの活用を視野に入れての宣伝で、是非していただけると、消費者として嬉しいなと思ひました。以上です。

【貴島会長】

その他、御意見、御質問ございませんでしょうか。

～寺岡委員挙手～

【寺岡委員】

すみません。細かいことで申し訳ないんですけど、「雪手亡」よりも倒伏性が優れているんですけども、製品収量のデータがそんなに優れないというのは、仮に「雪手亡」が倒伏しなかったら、「雪手亡」の方が収量性は多いってということでしょうか。それとも何か全体の着莢数というのが「十育A65号」の方が少ないということなんでしょうか。

【鈴木作物開発部長】

この倒伏は、3.5とかで完全に倒れたわけではないので、試験の中ではだいたい同じくらいというふうな感じなんですけれども、現場で倒れた場合には、かなり屑粒率が上がってくるので、製品収量は変わってくると思います。

【寺岡委員】

はい。ありがとうございます。

【貴島会長】

その他ございませんでしょうか。オンラインでご参加の皆様、どなたか御質問ございませんか。

～挙手なし～

【貴島会長】

それでは、私から一つ。この「十育A65号」は、コンバインを使うと、機械で収穫すると、葉落ちがないので、葉が落ちた状態で収穫できるので、製品的に整ったものがしっかりできるということなんですけれども、その葉が混入するという自体は、これまでの問題として、大きな何か問題があったんでしょうか。

【鈴木作物開発部長】

葉が混入してしまうと、緑色の汁が白い豆についてしまうっていうことが、すごく問題になっていて、それですと葉が落ちるまで、畑に置いておくと今度雨に当たって腐っちゃったり芽が出るっていうのが問題になっていたんで、それがこの「十育A65号」になるとだいぶ少なくなると考えています。

【貴島会長】

今までそれを解決できる品種がなかったということですか。

【鈴木作物開発部長】

はい。なかったです。

【貴島会長】

わかりました。ありがとうございます。それでは他に御意見がないようですので、「十育A65号」を優良品種としての認定に関して特段の異論はないといたします。ありがとうございました。

④てんさい「KWS 8K839」

【貴島会長】

それでは次に、てんさい「KWS 8K839」について、引き続き鈴木部長説明をお願いいたします。

【鈴木作物開発部長】

はい。てんさい「KWS 8K839」についてご説明します。まず特性の概要、来歴を御覧ください。「KWS 8K839」は、ドイツのKWS種子株式会社が育成した品種です。褐斑病に非常に優れた抵抗性を有する系統で、抵抗性はてんさい野生種から導入されました。令和元年に日本甜菜製糖株式会社が輸入し、令和2年から令和4年に輸入品種検定試験、各種特性検定試験を実施し、令和3年から令和4年に、全道3か所において現地検定試験を行いました。

(2)の特性については、表1の根重を御覧ください。この根重の「カーベ2K314」の根重のところ、「アマホマレ」100に対して、109となっていますが、「KWS 8K839」は117と根重が多くなっています。また、その次の次の糖量のところをご覧ください。「カーベ2K314」が「アマホマレ」103に対して、「KWS 8K839」では110となっています。

また、褐斑病抵抗性のところは、「カーベ2K314」の“強”に対して“かなり強”というふうになっています。

一方、その下の「カーベ2K314」の黒根病抵抗性、一番下のところなんですけれども、こちらが“やや強”に対して“中”となっているということで、こちらが短所となっています。

長所及び短所については、褐斑病抵抗性が“かなり強”であるというのが長所の1つ。根重、糖量が、「カーベ2K314」に比べて多いというのが長所となっています。短所については、黒根病抵抗性が“中”であるということです。

用途については、砂糖原料用となっています。

次のページを御覧ください。候補理由については、読み上げさせていただきます。ちょっと待ってください。その前に褐斑病がどれくらい強いかっていうのを先に御説明させていただきます。14ページの表2を御覧ください。

これは、令和2年から令和4年までの褐斑病抵抗性検定試験の結果なんですけれども、「リボルタ」というのが、“かなり強”で指定品種となっているものなんですけれども、「KWS 8K839」というのは、この“かなり強”の「リボルタ」と比べて、どの年もすごく低い発病程度となっていて、本当に今までにない優れた抵抗性を持っているんですけれども、判定として“かなり強”となっているというのは、今私たちの北海道の農業試験会議の中で最強クラスというのが、“かなり強”だったんですね。それでそれよりもさらに強いのが出てきちゃったんですけれど、その上のランクが今のところないということで、“かなり強”と判定しているんですけれども、「リボルタ」と比べると、本当に非常に優れた抵抗性を持っている品種です。

それでは、候補理由の方に戻らせていただきます。「カーベ 2K314」は、褐斑病抵抗性が“強”の多収品種で、抵抗性が“弱”の「かちまる」に置き換わって普及していくことで、褐

斑病対策に大きな役割を果たしてきました。しかし、近年の気候変動に起因する気象条件によっては“強”の抵抗性でも不十分な場合があり、特に昨年、令和4年は、夏期の高温多雨気象により例年になく褐斑病が蔓延し、「カーベ 2K314」においても、各地で被害が多発しました。今後も、褐斑病が蔓延しやすい気象条件が頻発する可能性があり、安定的に効果のある防除薬剤が少ないこともあいまって、抵抗性が“強”の品種では、褐斑病を抑えていくことが難しくなることが予想されます。そのため、より強い褐斑病抵抗性を持つ品種が必要とされています。

「KWS 8K839」は、極めて強い褐斑病抵抗性を持っており、さらに収量性が「カーベ2K314」より優れるため、褐斑病が蔓延しやすい条件下においても、安定した収量を確保することが可能となります。

なお「KWS 8K839」は、褐斑病抵抗性が野生種から導入されたため、一般品種に比べて採種性が低いことが見込まれるので、当面は「カーベ 2K314」を全面的に置き換える種子量の確保は難しいと考えています。

以上から、「KWS 8K839」を「カーベ 2K314」栽培地域の一部の褐斑病が蔓延しやすい地域で、褐斑病対策として置き換えることで、てんさい生産と農家所得の安定に貢献できると考えています。

栽培適地は、北海道で、普及見込み面積についてなんですけれども、先ほども説明しましたが、「KWS 8K839」は、褐斑病抵抗性が野生種から導入されたということで、一般品種に比べて採種性が低いことが見込まれますので、非常に優れた能力を持っているんですが、当面「カーベ2K314」を全面置き換えしつつ、普及見込み面積は、2,000haを見込んでいます。この種子に関しては、全量輸入で確保できることを確認しています。北海道農業試験会議における判定は普及奨励事項となっています。

その他特記事項としては、黒根病抵抗性が“中”であるため、黒根病が発生しやすいほ場では、抵抗性がより優れる品種を栽培するというふうにしています。説明は以上です。

【貴島会長】

ありがとうございました。ただいまの御説明に御質問、御意見ございませんでしょうか。

～五藤委員挙手～

【貴島会長】

はい。五藤委員。

【五藤委員】

農産協会のでんさい部の方で、一緒に試験をさせていただいておりますけれども、今、鈴木部長の方からお話あったとおり、褐斑抵抗性、ランクがつけられないぐらいの抵抗性を示しているということと、収量性があるということで、非常に有望な品種だと思ってございます。特にこれ、てんさいだけじゃありませんけれども、生産資材の高騰という中で、農薬等のコスト抑制ということについてもですね、併せて生産コストの抑制ということで、期待できる品種だなということで考えております。以上です。

【貴島会長】

ありがとうございます。その他に御意見、御質問ございませんか。

～挙手なし～

【貴島会長】

それでは、その“かなり強い”という「かなり」って言葉自体は強いのか、強くないのかわかんないっていう。はじめ聞いててどっちだったろうなと思って聞いてたら、極めて強い褐斑病抵抗性ってことが後で書かれてありまして、その説明の中でもわかったんですけども。その「かなり」っていう表記は、一般的な表現なんでしょうか。

【鈴木作物開発部長】

今のところその評価の中で、“中”の次が“やや強”で、その次は“強”で、もっと強いと“かなり強”っていうことになっていて、その品種が出てきましたんで、そのときは極めて強い“極強”になるということで今のところ検討中です。

【貴島会長】

じゃあ、極強ではないけれども、それよりちょっと劣るが、今までではなかった強さってこと。

【鈴木作物開発部長】

「KWS 8K839」はおそらく極めて強い“極強”というふうに。

【貴島会長】

そうですね。わかりました。これは表記としては“極強”っていう感じになるんですかね。

【鈴木作物開発部長】

この後、見直しを行う予定です。

【貴島会長】

なるほど。

【鈴木作物開発部長】

また、令和6年なんですけれども、この品種が出たので、防除の方も少し変わるんじゃないかというふうに考えていまして、道総研の病虫部門の方で今農薬散布回数を減らす試験も実施しているところです。

【貴島会長】

これは、ほ場抵抗性というふうに考えていいですか。それとも、あるレースに特異的な抵抗性？

【鈴木作物開発部長】

KWS株式会社のものなのでどういうふうに育成したかは、ちょっとわからないんですけども、かなり複数の抵抗性遺伝子がたくさんあって、それを循環選抜というもので集積し色んなレースに強いものにしたというふうに伺っております。

【貴島会長】

ありがとうございます。他に御意見ございますか。

～挙手なし～

【貴島会長】

ないようでしたら、「KWS 8K839」を優良品種としての認定に関して、特段の異論はなしといたします。ありがとうございました。

⑤てんさい「HT50」

【貴島会長】

では続きまして、てんさいの「HT50」について、鈴木部長お願いいたします。

【鈴木作物開発部長】

はい。それではてんさい「HT50」について説明します。まず、特性の概要、来歴を御覧ください。「HT50」は、スウェーデンのDLF BEET SEED種子会社が育成した品種です。

令和元年に北海道糖業株式会社が輸入し、令和2年から令和4年に輸入品種検定試験及び各種特性検定試験を実施し、また令和3年から令和4年に、全道3か所において現地検定試験を行いました。

特性については、表の1を御覧ください。ここに記載してある「リボルタ」というのは、総合的な耐病性に優れて、糖量がやや少ない品種で、「バラトン」というのが、ちょっと病気の抵抗性が「リボルタ」よりも劣るんですけども、糖量が多いということで栽培されている品種です。「HT50」については、糖量については、「リボルタ」の「アマホマレ」比101よりも多く、「バラトン」が104、「HT50」が105ということで、「バラトン」並の糖量があります。また病気の耐性については、「リボルタ」と全て同じ、抽苔耐性が“やや強”、そう根病抵抗性が“強”、褐斑病抵抗性が“かなり強”、根腐病抵抗性が“強”、黒根病抵抗性が“やや強”ということで、非常に病気に強い、総合的に優れた特性を持っています。

長所及び短所についてですけれども、長所1つ目が、根重、糖量が、「リボルタ」に比べてやや多い。で、次が褐斑病抵抗性が、「バラトン」に比べて強い“かなり強”である。続いて、根腐病抵抗性が、「バラトン」に比べて強い“強”であるというふうになっています。短所については、ございません。

4番の用途については、砂糖原料用となっています。

続いて、16ページ候補理由について、読み上げさせていただきます。てんさいの作付地域には、土壤の排水性が不良であるため病害の発生しやすいほ場がかなり存在し、そのようなほ場では、耐病性に優れた品種が栽培されてきました。耐病性品種の一つである「リボルタ」は、てんさい栽培において特に問題となるテンサイそう根病、褐斑病、根腐病、黒根病の4病害すべてに抵抗性を持っていますが、収量面で欠点がありました。そこで、収量性が向上した「バラトン」が、「リボルタ」を置き換える形で普及してきたんですが、「バラトン」は4病害抵抗性を持つものの、褐斑病抵抗性と根腐病抵抗性が「リボルタ」より弱いという短所がありました。そのため病害発生が激しいほ場では、「リボルタ」が栽培され続けています。以上のことから、「リボルタ」並の優れた耐病性と「バラトン」並の収量性を兼ね備えた品種が必要とされていました。

「HT50」は、「リボルタ」と同じ強さの4病害抵抗性を持ちます。また、収量性については、糖量が「リボルタ」より向上しており、「バラトン」並となっています。

以上から、「HT50」をすべての「リボルタ」、および大部分の「バラトン」に置き換えて普及させることで、てんさい生産と農家所得の安定と向上に寄与できると考えております。

なお、直播栽培地域では、気象等の条件によって、「バラトン」のような根重型品種が適し

ている場合があるということで、このため「バラトン」を直播栽培地域の一部で残すようにしております。

3に普及について、栽培適地は北海道。普及見込み面積は、6,000haを見込んでいます。北海道農業試験会議における判定は、普及奨励事項となっています。その他の特記事項では、抽苔耐性が“やや強”であるため、早期播種や、移植栽培における育苗時の過度の低温による馴化は避けるとなっています。参考データは特にありません。説明は以上です。

【貴島会長】

鈴木部長どうもありがとうございました。てんさいの「HT50」について、ご意見ご質問ございませんでしょうか。

～五藤委員挙手～

【貴島会長】

はい。五藤委員。

【五藤委員】

これも先ほどの品種と同時期に試験しているんですけども、「リボルタ」と「バラトン」の良いところを掛け合わせたというような形ですね、特に耐病性、全ての面で、収量性もあるということになりますので、期待をしているところであります。ちょっと一点私もちょっと質問でわからないんですけど、直播の比率がだいぶてんさいから上がってきているということで、最後に直播の一部では、「バラトン」を残したいということでもありますけれども、これ移植に向いてるっていう理解でよろしいでしょうか。それとも両方ある中で一部「バラトン」に向いてるっていうところがあるということなんでしょうか。

【鈴木作物開発部長】

北糖さんにお聞きした中では、直播栽培のときって早く根が太る方が、気象条件がすごい不安定なときにちょっと穫れる傾向があって、農家の方で早く根が太る品種が好む方が一定割合いるということで一部を残して、そういう方は「バラトン」を作っていただくことになると思います。

【五藤委員】

気象条件、地域によってということですね。

はい、わかりました。

ありがとうございます。

【鈴木作物開発部長】

ありがとうございました。

【貴島会長】

ありがとうございました。その他ございませんでしょうか。オンラインで参加の委員の方々、もし御意見がございましたら、よろしくお願ひいたします。

～挙手なし～

【貴島会長】

なければ私から一つ。先ほどの「KWS 8K839」とこの「HT50」っていうのが二つ、ものすごく優れた特性を持つ品種として、同時に候補に挙がっているわけですがけれども、この二つが競合することはないのでしょうか。

【鈴木作物開発部長】

そうですね。「HT50」は北糖さんの地域で普及していくもので、あの「KWS8K839」のやつは、日甜さんが栽培指導をして、普及していくと思いますので、競合せずにそれぞれのところで栽培されていくというふうに考えています。

【貴島会長】

わかりました。ありがとうございます。
他にございませんでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

なければこのてんさいの「HP50」、優良品種としての認定に関して特段の異論はなしといたします。ありがとうございました。ここで5分間の休憩を挟みたいと思います。この時計で3時15分まで休憩したいと。ありがとうございました。鈴木部長はこれで。もう一つありました。失礼しました。それでは休憩です。

～休憩～

【貴島会長】

お揃いでしょうか。それでは始めたいと思います。それでは、なたねの「ペノカのしずく」。
鈴木部長お願いいたします。

⑥なたね「ペノカのしずく」

【鈴木作物開発部長】

それでは、なたね「ペノカのしずく」について、御説明いたします。

来歴をご覧ください。「ペノカのしずく」は農研機構東北農業研究センターにおいて、寒地及び寒冷地に適したダブルローなたね品種の育成を目標に、交配、選抜された品種で、令和4年に品種登録されました。

特性については、表1を御覧ください。開花期については、「キザキノナタネ」より現地試験で1日、北農研センターと中央農試では3日遅く、成熟期は1～3日早い品種です。寒雪害抵抗性および菌核病抵抗性程度は「キザキノナタネ」と同程度で、草丈がやや高く、子実重は試験地全体で見ると、「キザキノナタネ」とほぼ同等となっています。一番大きな特徴は、一番下の「グルコシノレート含量」というところを御覧いただきたいんですけども、北農研センターの数字では、「キザキノナタネ」が166.3に対して16.2ということで、こちらは表の一番下の5)のところにカナダにおけるダブルローなたね“Canola”の基準値は、 $30\mu\text{mol/g}$ 未満となっているんですけども、これより低いということで、グルコシノレート含量が低いというのが特徴となっています。

長所及び短所については、21ページの下のところですが、長所については、グルコシノレー

ト含量が低いこと。短所は特にございません。

用途については、子実用ということで、搾油用となっています。22ページの候補理由については、読み上げさせていただきます。平成4年に北海道の優良品種となった「キザキノナタネ」は、寒地適応性に優れ、収量性や含油率が高く、低エルシン酸。これは、シングルローというんですけども、エルシン酸を過剰摂取してしまうと、人間の心臓などに障害を引き起こす危険性があるということで、こちらが低い品種であったことから、油糧作物として道央地域を中心に導入が進みました。さらに、なたねは平成23年度から経営所得安定対策として直接支払交付金の対象作物となったこと等から作付面積が拡大し、平成22年には400 haほどであったんですけども、令和2年には1,040 haまで増加して現在全国の57%を占めています。

一方、キャノーラ油またはサラダ油の原料等として輸入されている海外産品種は低エルシン酸に加えてグルコシノレート含量が低い、いわゆるダブルローの特性を有しています。ダブルローなたねの搾油粕は、家畜に有害なグルコシノレート含量が低く、タンパク質飼料としても非常に利用価値が高いです。

「キザキノナタネ」の搾油粕は、グルコシノレート含量が高いため家畜飼料としての利用が難しく、飼料に比べて需要が少ない有機質肥料としての利用に限られていました。

また、近年は輸入大豆粕等の飼料原料価格の高騰が深刻化し、搾油粕を自給タンパク質飼料として利用できるダブルロー品種栽培へのニーズが高まっていました。このような背景から、国内で開発されたダブルロー品種の導入が試みられたのですが、北海道においては越冬性、収量性、耐病性、粒大が劣っていたことから実現ができませんでした。

「ペノカのしずく」は、ダブルローの特性を有し、千粒重はやや軽いのですが、問題がある程度の軽さではなく、収量性は「キザキノナタネ」と同程度です。

また、寒雪害抵抗性および菌核病抵抗性は「キザキノナタネ」と同程度に強いということで、さらにダブルロー品種であるため、搾油粕は高タンパクな国産飼料の一つとして利用可能です。

以上より、「ペノカのしずく」を「キザキノナタネ」に置き換えて普及することで、北海道産なたねの付加価値を高め、北海道のなたね栽培の振興に寄与するとともに、国産濃厚飼料の供給の一助ともなると考えています。

3の普及について、栽培適地は北海道のなたね作付け地帯。普及見込み面積は「キザキノナタネ」の全面置き換えということで、1,000haを見込んでいます。北海道農業試験会議における判定は、普及奨励事項です。その他の特記事項としては、他のなたね品種およびアブラナ科植物と交雑するので、十分に隔離された採種ほ場で種子増殖をするということ。また、一般栽培では採種は由来の種子を使用することと、後代ではエルシン酸濃度が高くなる後代種子は、グルコシノレート含量は低いらしいんですが、後代種子も交雑するとエルシン酸濃度が高くなる可能性があるということで、アブラナ科植物から十分隔離して栽培する。というのを特記事項として、記載しています。参考データはありません。説明は以上です。

【貴島会長】

鈴木部長どうもありがとうございました。

それでは、なたねの「ペノカのしずく」について御質問、御意見をお願いします。

～吉村委員挙手～

【貴島会長】

吉村委員。

【吉村委員】

21ページの、特性の一覧のところで見ると、産地によってずいぶん子実重などに差があるように思うんですけど、これは毎年のことなんですか？ということと、もう一つ、先ほど他のアブラナ科の植物から十分隔離して、栽培したり、採種するってということなんんですけど、このアブラナ科の植物って例えばどういうものでしょうか。

【鈴木作物開発部長】 1:33:

一番気をつけなきゃいけないのが、なたねの花ってそのへんの雑草にもあるので、そのあたりが一番注意しなきゃいけない。ただ、エルシン酸濃度とかがひどくなるほど、たくさん生えているところはあまりないとは思うんですけども、そのあたりがちょっと気をつけて欲しいなっていうところと、今の産地だとかぼれ種とかで、野生化してしまったなたねもあると思うんですよ。そういうことがないように、草を刈ってもらうとか、そういうところを気つけていただきたいなというふうに考えています。また、収量についてなんですけど、北海道農業研究センター、十勝の方にありますので、なたねの産地っていうのは、大道央圏なので、岩見沢市、滝川市、安平町とかの今の産地にあたる場所では、かなり収量が穫れているということで、こちらについては、中央農試と現地試験の収量の方がだいたい今の現状このぐらいになるのかなというふうに考えていただければと思います。

【吉村委員】

すみません。もう一ついいですか。

【貴島会長】

どうぞどうぞ。

【吉村委員】

なたね油を搾油する大規模な工場っていうのは、どこら辺にあるんでしょうか。

【鈴木作物開発部長】

ごめんなさい。ちょっと私もそこはわからないですけど、滝川などでは搾油して販売していると思うんですけど、工場がどこらへんにあるかはちょっとわかりません。申し訳ないです。

【吉村委員】

わかりました。ありがとうございます。大規模な工場とかは北海道にありましたら、その搾油した粕を畜産で使うこともできるので、良いことだなと思いました。利点はあるので進めてください。

【貴島会長】

ありがとうございます。その他の御質問、御意見ございませんでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

栄養面からダブルローということなんですけれども、石井委員、何かご意見、コメントございませんか。

【石井委員】

あまりダブルローっていうところは、脂肪酸がなたねの種に多いっていうことくらいしか知見を持っていないものですから、ダブルローっていうのができるんだっていう程度ぐらいしか、すみません私は、印象がなかったんですけども、飼料粕を搾油した後ですね、それを家畜の濃厚飼料に使えるっていうことの方が、実はこれから今飼料が値上がりしているので、すばらしいことかなと拝見していました。以上です。

【貴島会長】

ありがとうございます。その他、オンラインで参加の委員の皆様ご意見ございませんでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

それでは1つ。採種、種を採るっていうのが、このアブラナ科にとってはすごく大事なことだと思うんですけども、こうした他のアブラナ科の植物とは交雑しないようなほ場っていうのが、1,000haくらいしかないんでしょうか。

【鈴木作物開発部長】

採種するところは、1,000ha分。なたねって種が小さくて、増殖率も高いので、採種ほ場自体は大面積ではないんですけども、そこで混ざっちゃうと大変なんですけれども、採種ほ自体は、今北農研さんに話を聞いた中では、岩見沢の山の中みたいところで、採種をして、しっかりした種を供給する予定と聞いています。

【貴島会長】

その種をそれぞれの農家さんで育てて、採れた種は、ある程度他のアブラナ科と混ざっても、油を取るのには問題ない。

【鈴木作物開発部長】

ほんのちょっと交雑するくらいだったら、ダブルロー、グレコシノレート含量もエルシン酸含量も上がるものではないので、採種ほの隔離をしないとちょっと危険かもということで、種は必ず採種ほ由来のものを使ってくださいということ。

【貴島会長】

なるほど。採種ほに限っては、かなり限られた、隔離されたところで。それを使って栽培するのはある程度、アブラナ科があっても大丈夫だと。

【鈴木作物開発部長】

まあまあ大丈夫ですけど、なるべくないように気をつけながら、周りの草を刈ったりしてくださいという感じで普及していくことになると思います。

【貴島会長】

わかりました。ありがとうございます。

【貴島会長】

御意見なければ、「ペノカのしずく」優良品種としての認定に関して、特段の異論はなしとい

たします。ありがとうございました。

⑦アカクローバ「北海19号」

【貴島会長】

それでは、ここで説明される方は交代されます。続いて、飼料作物の3品種について、御説明をしていただきます。道総研酪農試験場の杉本草地研究部長から、まず、アカクローバの「北海19号」について御説明をお願いします。

【杉本草地研究部長】

アカクローバ「北海19号」です。まず来歴です。「北海19号」は北農研センターが育成したアカクローバ品種です。25ページ来歴のところの下から3行目、真ん中あたりをご覧ください。2012年から19年に予備検定を実施し、有効性が認められたので、2020年から2022年にかけて3年間道内5場所において地域適応性検定試験と各種の特性検定試験を実施しました。

品種の特性についてです。標準品種「リョクユウ」との比較をしています。まず早晚性です。「リョクユウ」は早生の品種ですが、「北海19号」は開花始が「リョクユウ」より6日早く“極早生”に属すると判定されました。

次に収量性ですが、オーチャードグラスと混播した場合の結果を、裏面の表2に掲載していますのでご覧ください。オーチャードグラスとの混播試験は北農研センターと酪農試験場天北試験場で実施しました。「北海19号」の2ヶ年合計乾物収量は、北農研の結果では、「リョクユウ」比114%、天北試験場の試験結果では「リョクユウ」比103%で、2場所平均では108%「リョクユウ」より多くなりました。北農研センターで実施した夏播種適性検定試験でも「リョクユウ」比105%多収という結果になりました。また、年間計収量に対するマメ科率はその右側をご覧ください。北農研が37%、天北試験場で30%。北農研の夏播種適性試験でも43%と、概ね適正範囲内で「リョクユウ」より高く、合計収量と合わせて混播適性は優れるということがわかりました。チモシーとの混播試験は、表3をご覧ください。道総研畜試・北見農試・酪農試で行いました。2ヶ年合計乾物収量は、畜試が「リョクユウ」比107、北見で「リョクユウ」比97、酪農試が「リョクユウ」比104となっています。3場所の平均では「リョクユウ」比103%で、ほぼ同程度という結果でした。ただ北農研で実施した夏播種適性試験では、「リョクユウ」比109%と多収となるという結果が得られています。年合計収量に対するマメ科率は畜試がやや高く、北見、酪農試の夏播種試験では同程度で、混播適性は概ね「リョクユウ」並みとわかりました。

25ページにお戻りください。特性の5)の永続性ですけれども、2年目に対する3年目の乾物収量比は86%で、「リョクユウ」の78%より永続性については優れるという結果が得られました。6)の越冬性は「リョクユウ」並という結果でした。耐寒性は「リョクユウ」と同程度で、雪腐病に対する耐病性は「リョクユウ」より優れるということが示されました。これらの結果を踏まえて「北海19号」の長所としては、オーチャードグラスとの混播において多収で、雪腐病に対する対応性と永続性に優れることが挙げられます。短所はうどんこ病罹病程度がやや高いことと倒伏程度がやや高いということが挙げられました。

以上の結果から、優良品種候補として採用した理由を27ページに掲載しています。オーチャードグラスの混播において多収で雪腐病に対する対応性と永続性に優れること。また、播種当年の生育が「リョクユウ」と同程度からやや優れ、追播にも利用できることが挙げられます。自給飼料の高品質化と窒素肥料の節減を図るため「北海19号」は、イネ科牧草との混播や経年草地への追播利用により北海道の優良な草地植生の維持、回復に貢献できると期待されることから優良品種候補となりました。

「北海19号」の栽培適地は北海道全域で普及見込面積は6,500haと見積もられています。北海道農業試験会議における判定は普及奨励事項、優良品種候補となりました。説明は以上です。

【貴島会長】

杉本部長どうもありがとうございました。ただいまの説明に対しまして御質問御意見ございましたら挙手をお願いします。

失礼しました。続けて説明していただいた後に、まとめて御質問、御意見をお伺いしたいと思います。失礼致しました。

⑧とうもろこし(サイレージ用)「北交97号」

【杉本草地研究部長】

では続きまして29ページ、とうもろこし「北交97号」。まず来歴です。とうもろこし「北交97号」は、北農研センターが育成した品種で、2019年から地域適用性検定試験および各種特性検定試験を行い有望と判断されたことから優良品種候補とこの度となりました。

「北交97号」の特性です。標準品種「KD418」との比較をしています。まず、1)の早晩性についてですけれども、絹糸抽出期は「KD418」と比べて2日早く、雌穂乾物率は高く、総体乾物率は「KB418」並でしたので、早晩性は「KD418」と同じ“早生の晩”と判定されました。2)に耐倒伏性ですけれども、耐倒伏性は標準品種より優れ、発芽初期生育は良好という特徴があります。収量性に関しては、推定TDN収量はやや標準品種と比べて低いということが挙げられますが、普及対象地域の試験場の平均で、これは裏面の表2の特性のところ、乾物重が北見農試で100、十勝牧場で100。2場所平均で100ということですので、乾物収量は十勝牧場で103、それから、乾物重、表2の真ん中辺で103と推定TDN収量がやや高く、乾雌穂重割合、それから乾物中TDN割合は高いことが示されました。北農研センターで2022年に実施した子実生産力検定試験は子実収量が「KD418」比116と高いことから、この品種については、子実収量が高いことが特徴に挙げられます。29ページの6)の耐病性についてですけれども、特性検定試験におけるすす紋病抵抗性検定試験の結果は、“強”となりました。また、ごま葉枯病抵抗性標準品種よりも強いという特徴を持っています。ただ各試験地でのすす紋病およびごま葉枯病抵抗性程度は並ということです。総合的に判断してすす紋病及びごま葉枯病抵抗性は強い。あと根腐病の病徴発病は低かった。以上の試験結果から、30ページの長所および短所のところけれども、長所は初期生育が良いこと。それから乾雌穂重割合が高い。また、耐倒伏性に優れ、すす紋病抵抗性が強い。短所はTDN収量がやや低いということで挙げられます。優良品種候補に採用した理由については、これまでの結果で申し上げたとおりすす紋病抵抗性や耐倒伏性に優れ、近年増加傾向の台風被害において被害の軽減が可能である。また、乾雌穂重割合の高いことから、普及対象地域でのトウモロコシ作付の増加。良質サイレージの安定栽培と生産性向上への貢献が期待できるということが挙げられます。普及対象地域は、道央北部、十勝中部、網走内陸の各地域で普及面積が800ha見込まれている。北海道農業試験会議における判定は普及奨励事項、優良品種候補となりました。

⑨とうもろこし(サイレージ用)「P7948」

【杉本草地研究部長】

続きまして、とうもろこしサイレージ用「P7948」です。まず、特性の概要、来歴を御覧ください。この「P7948」は、アメリカのパイオニア社が育成した品種で、2019年にホクレン農業協同組合連合会が導入しました。同年に導入者が品種比較予備検定試験を行った結果、有効性が

認められ、2020年から2022年までの3年間、北見農試および畜産試験場において、品種比較試験、また、2021年から2022年までの2年間を十勝の鹿追町で現地試験も実施しております。さらに、2020年から2022年まで3ヶ年かけて北農研ですす紋病抵抗性およびごま葉枯病抵抗性に関する特性検定試験を行っています。次に試験結果です。

特性の早晩性を御覧ください。この品種については、標準品種「KD320」との比較です。早晩性については標準品と比べて、絹糸抽出期が同日から1日遅い。収穫期熟度は、標準品種並ということでした。雌穂乾物率および総体乾物率は、農試平均も現地試験の結果も標準品種より高い結果でした。従って早晩性は標準品種と同じく早生の中に属すると判断されました。次に、耐倒伏性ですが、耐倒伏性は裏面の表1の中ほど、倒伏個体率のところになります。農試平均で「KD320」が5.1%であるのに対して、「P7948」は8.6%、鹿追町で実施した現地試験でも「KD320」の0.6%に対して「P7948」は0.9%で、標準品種並の強さを持っていると判断されました。

続いて収量性、乾物特性ですが、表2を御覧ください。乾物重の右隣に示されている同左比の部分をご覧ください。これは対標準品種比ですけれども、乾燥重は農試平均で標準品種比103%となっています。鹿追で実施した現地試験では111%となっています。その右側の推定TDN収量も同様で農試平均で並からやや多い、現地試験の結果では標準品種より明らかに多いという結果が得られています。

また、乾雌穂重割合も標準品より高いということがわかりました。

表3を御覧ください。耐病性です。特性検定試験におけるすす紋病抵抗性は判定かなり強といふように判断されてます。ごま葉枯病抵抗性は標準品種よりやや弱いという結果でした。しかしほ場試験におけるごま葉枯病罹病程度は、表1にありますように、標準品種とほぼ同程度でしたので、利用上の大きな問題はないというふうに判定されます。

以上の試験結果から本品種の長所および短所をまとめると、33ページの3)を御覧ください。長所は乾物総重および推定TDN収量がやや多く、乾雌穂重割合が高いこと。また、特性検定試験におけるすす紋病抵抗性が“かなり強”で、すす紋病抵抗性が強いことが挙げられます。短所は特にありません。

優良品種候補として選定した理由を35ページの一番上に記載しております。「P7948」は早晩性が“早生の中”に属し、収量が標準品種「KD320」よりやや多い。また、すす紋病抵抗性が「KD320」より強いことから、すす紋病による栄養収量の低減リスクを緩和できることが期待されます。このため、普及対象地域において良質サイレージ原料の安定栽培と生産性向上への貢献が期待できることから優良品種候補となりました。

普及対象地域は道北部、十勝及び網走地域。普及見込面積は、1,300ha。北海道農業試験会議における判定は普及奨励事項、優良品種候補となりました。

以上で説明を終わります。よろしくお願ひします。

～飼料作物3品種について質疑～

【貴島会長】

杉本部長どうもありがとうございました。それでは3つまとめて御審議お願いします。そうですね、まずアカクローバの「北海19号」、それから続きまして、とうもろこしの「北交97号」、その次にとうもろこしの「P7948」について、それぞれ審議していきたいと思ひます。で、ここで本日御欠席の平田委員から事務局に事前に御意見はあります。関委員と平田委員から事前にありますので、web参加の方々は画面表示を御確認ください。

【山本主幹】

事務局の方から説明させていただきます。まず関委員の方の、1番に書いてありますが、北海

道農作物優良品種の認定（案）についてということで意見を記載されているものを読み上げさせていただきます。

飼料作物関係3品種系統について、優良品種として認定することは妥当であるとする。その上で、アカクローバ「北海19号」は、多収で、持続性に優れることから、良質な自給飼料の生産や草地植生の維持に寄与すると考えられる一方、これまでになかった熟期帯の品種なので、「リョクユウ」や「ナツユウ」といった既存品種との使い分けなども指導していただきたい。とうもろこしについてですが、子実用トウモロコシ生産の気運が高まる中で、子実収量に着目した品種は普及拡大の大きなチャンスである。加えて「北交97号」は従来品種よりも耐倒伏性が優れており、環境リスクにも対応できること、「P7948」は乾物収量が多く、短所がないことが評価できるとの意見です。

もう一つ平田委員さんからはもう一つの資料の平田さんの方は1番のところですが、優良品種の認定についてということで、提案のあった9候補について、認定することに異存ありません。以上です。

【貴島会長】

どうもありがとうございました。それではご質問ご意見をお願いしたいと思います。まずそれでは最初のアカクローバからいかがでしょうか。「北海19号」について、御質問、御意見ございませんでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

では、私の方で一つ言葉の説明をお願いしたいんですが、マメ科率というのは、どういう指標になるのでしょうか。

【杉本草地研究部長】

マメ科牧草は単体で植えることが少なく、オーチャードグラスとかチモシーとかイネ科牧草と組み合わせて植えると思うんですけども、その中のイネ科牧草の割合がイネ科率。マメ科牧草の割合がマメ科率。マメ科牧草は結構競合力が強いので、あまりイネ科牧草を押しつける性質があるとマメ科牧草ばかりになってしまうので、それを適正にイネ科と共存していく性質が重要になります。

【貴島会長】

大体30%前後が適正な割合になるということですか。

【杉本草地研究部長】

はい。そうですね。

【貴島会長】

どなたか、残念ながら本日は専門でやられる畜産関係の関委員が御欠席なので、資料についてそれほど踏み込んで質問できないかもしれませんが、何かございましたら、不明な点などございましたら、ぜひ御質問をお願いしたいと思います。

～挙手なし～

【貴島会長】

普及見込みの面積についてなんですけれども、3つ通じて、作付総面積530,400haに対して、それぞれ1%ぐらいの普及見込みなのですが、おそらくいろんな作物が飼料作物として栽培されるために、これだけの割合しかないというふうに認識していますけれども、この1.2%というのは、どういう意味があるのでしょうか。

【杉本草地研究部長】

普及見込面積の1%を超えると、北海道農業試験会議で普及奨励事項に判定されます。1%未満ですと、普及推進事項と判定が変わってしまうのです。この作付面積総面積53万haというのは、北海道で栽培されている牧草類全体、牧草畑全体が530,000ha。その中でこの「北海19号」はイネ科牧草に混ぜて、約6,500ha栽培されることが期待されるという意味合いです。

【貴島会長】

ありがとうございます。その中でイネ科牧草と混播して、30%前後を確保するという。

【杉本草地研究部長】

はい。そうですね。

【貴島会長】

なければ、次とうもろこしの「北交97号」に関しまして、御質問、御意見ありませんでしょうか。

～吉村委員挙手～

【貴島会長】

はい。どうぞ。吉村委員。

【吉村委員】

サイレージ用ですので、実も葉っぱも全て一緒に収穫するんですよね。

【杉本草地研究部長】

そうですね。

【吉村委員】

それと、適応箇所、適応地のところに、根室、釧路が入ってないんですけども、根室、釧路はもう既にあるのでしょうかね。

【杉本草地研究部長】

まず最初のご質問から、とうもろこしサイレージ用なので、茎葉も子実も全部一緒に収穫するというはそのとおりなんですけれども、実は北農研センターは、この「北交97号」をサイレージ用ではなくて子実用をかなり意識して育種しています。ただ優良品種の枠としては、今のところサイレージ用しかないのが、優良品種候補としてはサイレージ用になってしまってますけれども、かなり子実用を意識して作っているのが、生産現場の中では子実を利用することを期待しているという側面があります。

普及対象地域につきましては、この品種の早晩性が“早生の晩”という早晩性で、道北部と

か中部、網走の内陸となっていますけれども、根室、釧路地域に普及させるような品種ですと“早生の早”のようにもっと早い品種じゃないと栽培が難しいので、そういうふうになっています。

【吉村委員】

わかりました。ありがとうございます。

【貴島会長】

ありがとうございました。オンラインで参加の皆様、御質問、御意見ございませんでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

それでは次の「P7948」でいかがでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

それでは私の方から、表1の倒伏個体率というのがあります。これ「P7948」と「KD320」が比較されているんですけども、いずれも倒伏個体率は、「P7948」の方が高いんですけども、高い方が良いということなんでしょうか。

【杉本草地研究部長】

いや、倒伏個体率は低い方がいいです。ただ、先生おっしゃったように、「P7948」の方が数字を見れば、確かにどの数字も高くなっているんですけども、その程度については、「KD320」とほぼ変わらないので実際に利用する上では、「KD320」と同様の使い方ができるだろうという判断になっています。

【貴島会長】

3%ぐらいの違いはあまり大して違いではないという。

【杉本草地研究部長】

そうですね。特に鹿追、現地なんかだと0.6、0.9。あと北見農試で数字入ってないのは、この3年間で、どちらも倒れていない。要するに風が吹かなかった。

【貴島会長】

なるほど。すす紋病に関しては、“かなり強”ということは、これも“強”より強いという。そして、“極強”っていう言葉は当てはまらないにしても、そういう意味合いがあるということですね。

【杉本草地研究部長】

はい。そうです。実はトウモロコシのすす紋病抵抗性については、“極強”というランクもあるんですけど、この品種については、“極強”までいかないけれども、“かなり強”という強い品種と判定されました。

【貴島会長】

委員の皆様いかがでしょうか。

～挙手なし～

【貴島会長】

吉村委員。地域農業の振興に携わる立場から、その他に何かもし御意見ありましたら。

【吉村委員】

空知では最近とうもろこしの子実っていうか、実を採るのが盛んに行われているので、これが初期生育は良いっていうか直播で播いたら発芽率が大変良いのは、助かるなどと思って聞いておりました。ありがとうございます。

【貴島会長】

ありがとうございます。寺岡委員。とうもろこし「P7948」のように、海外から導入される品種もあります。全般的なお話で構いませんが、種苗産業の発展に携わる立場から、御意見ありましたらお願いします。

【寺岡委員】

「P7948」のデータを見させていただいて、すす紋病にかなり強いということで、サイレージに入れる際に、すす紋病その他の病気に罹病した収穫物をサイレージに入れると、そこから乳酸発酵が十分されないことがあると聞いています。そういう点から見て、病気に強いということは、優良品種としても、素質というか十分にあると思います。

【貴島会長】

ありがとうございます。その他御意見なければ飼料作物3品種とも、優良品種としての認定に関して、特段の異論はなしといたします。ありがとうございました。

(2) 北海道農作物優良品種への認定取消し(案)について

【貴島会長】

次に議事の(2)北海道農作物優良品種の認定取消(案)について審議します。取消しの候補は、資料の最後の方のページに掲載してありますとおり、14品種です。それでは、事務局より説明をお願いいたします。

【山本主幹】

はい、事務局山本です。私の方から説明させていただきます。資料の方は37と38ページ。最後のページとなっております。最初に資料38ページの最後のページの欄外、字が小さくて申し訳ございません。ご覧いただきたいと思います。こちらに認定取消しの基準が記載されております。基準は全部で(1)から(6)の6種類であります。ちょっと読ませさせていただきますが、(1)品種特性が変化し、認定の基準を満たさなくなった場合。これが1つ目。2つ目、普及対象地域で栽培上重要とされる特性、または、生産物の利用上重要とされる特性に関し、重大な欠点が明らかになった場合。(3)、3つ目ですが、作付面積が著しく減少し、今後とも増加する見通しが無い場合。(4)、4つ目、新たな優良品種によって置換えが可能である

場合。5つ目、種苗供給が困難となった場合。最後6つ目ですけど、品種育成者等による条例第5条の規定に反する行為が明らかになった場合ということで、この条例の話ですけれども、参考資料でもあるんですが、この場合条例とは、「北海道主要農作物等種子の生産に関する条例」であります。その5条2項の方に「品種育成者は、優良品種を育成したときは、種子生産者が優良種子を安定的に生産するために必要な優良品種の種子の提供および種子の生産に資する情報の提供を行うよう努める」と定めております。その責務が情報提供を行うように努めるっていうその責務が果たせない、そういった場合については、この(6)番目に該当するということであります。この1から6までの基準を種苗の生産流通に係る農業団体、種苗会社など意見を聞きまして、勘案しまして、今回優良品種の認定取消候補を選定させていただいたところですよ。

前のページ37ページに戻っていただきたいと思います。候補品種ですけれども、この資料の左側の方から作物名、品種名、優良品種決定年次、育成場等、該当する取消基準、先ほどの(1)から(6)の該当するところの基準。取消しの具体的な理由。それと直近5ヶ年の作付面積の推移を記載しております。この資料に基づきましてご審議をお願いしたいと思っております。優良品種の認定等は、上から作物ですけれども、大豆が1品種。馬鈴薯が7品種、メロン、りんごがそれぞれ1品種。それと11番からページを跨いでですが、13番、次のページまで、11、12、13が牧草3品種で、最後に14番がサイレージ用とうもろこしの1品種。合計14品種となっています。ご審議の方をよろしくお願いいたします。以上です。

【貴島会長】

ありがとうございます。ここで本日欠席の関委員と平田委員から事前にご意見をいただいておりますので、事務局からご紹介いたします。Web出席者の方は、画面表示をご確認ください。

【山本主幹】

あわせて私の方から意見をいただいた、まず関委員の方です。2番の北海道農作物優良品種の認定取消し(案)についてということで意見を読まさせていただきます。

“飼料作物4品種について、種子供給の見通しがつかない品種や、過去5年間の種子供給実績が見られない品種が候補に挙げられている。スムーズブロムグラス「フーレップ」およびチモシー「ホクシュウ」については、家畜改良センターの原種子生産対象品種からも外れていることから、今後の種子供給は困難になると思われる。また、「ホクシュウ」は後継品種「なつさかり」に置換えが進んでいる。トウモロコシ「たちぴりか」は根腐れ病に弱く、同熟期帯には複数品種がある。スムーズブロムグラスは5年以上、道内で種子の流通が見られていない。これらのことから飼料作物4品種については北海道優良品種の認定取消しは妥当であると思われる。“以上です。

【貴島会長】

ありがとうございます。

【山本主幹】

平田委員の方の2番の方ですが、“認定取消し(案)について、提案のあった14候補について、馬鈴しょ以外の品目については認定取消しすることに異存ありません。馬鈴しょについては、シスト対策における整理がついていない現状においては、認定取り消しに関しては、今後関係機関を含めて検討・協議の場が必要と考える。“

以上です。

【貴島会長】

ありがとうございました。お二方の委員からのコメントでございました。ではただいまの説明について、ご質問ご意見。優良品種認定取消候補についてのご質問ご意見ございませんでしょうか。

～吉村委員挙手～

【吉村委員】

馬鈴しょのことなんですけれども、普通の作物だと種の状態では原種を保管するというのは、聞いたことがあるんですが、馬鈴しょの場合は、今のままで保管するってことはできないので、これがある限りずっと誰かが作り続けなきゃいけないってことなんですよねっていうのを確認したいです。それから、「コナフブキ」につきましては、結構あの実績があったのを今回取消しということなので、そこら辺の経緯を教えてくださいと思います。

【牧野農産振興課長】

はい、ありがとうございます。まず「コナフブキ」の話でございますけれども、この数字ありますとおり、令和3年の数字はまだまとまっていないので記載しておりませんが、年々減っているということ。ただ面積はある程度多いんですけれども、本道ではですね、平成31年、令和元年以降ですね、ジャガイモシストセンチュウの抵抗性品種転換計画というものに従いまして、感受性品種、「コナフブキ」もそうですけれども、こういったものをシストセンチュウの抵抗性品種に変えていくという形で官民一体となって取り組んでいるところでございます。

こちらにつきましては、「コナフブキ」は感受性ということで、今後、この説明のところにもございます、他品種への移行により作付面積が著しく減少していくということで、今後増加する見通しがなかなかないということが主な理由でございます。

また、中央会の平田部長からも御意見がございますけれども、まずこういった大きな方向性があること、そして説明いたしましたとおり、品種が非常に多くなってございます。こういったものにつきましては、非常に集約が品質の確保という点からも求められてございます。今回、優良品種から外すということにつきましては、優良品種というのは、今後普及拡大をしていくものが中心ということになりますので、こちらにつきましては、優良品種から外しましても、産地の状況に応じましてはですね。地域在来品種という形で作付、対応も可能となっておりますので、こういった提案をさせていただいております。

加えて申し上げますと、シスト対策こちらにつきましては、非常に北海道の重要な対策を続けていかなければならないということで、昨年ですけれども、北海道ジャガイモシストセンチュウ類防除対策基本方針、こちらを改定させていただきまして、地域と協力して防除対策のまん延防止をですね、取り組んでいるところでございます。今回のご意見も踏まえましてですね、引き続きこのシスト対策につきましては、しっかり関係団体の皆様と連携いたしまして対応させていただきたいと思っております。以上です。

【貴島会長】

牧野課長どうもありがとうございました。吉村委員よろしいですか。ただいまの事務局から説明を以って、以上の優良品種認定の取消しに関しては、皆様御承認いただけますでしょうか。

～委員から異論の声等なし～

【貴島会長】

ありがとうございます。それでは認定を取り消すことについて、議案のとおりとしたいと思います。

最後に本日の調査・審議の結果について総括いたします。本日、知事から諮問を受けました9品種を優良品種として認定すること、14品種について認定を取り消すことについて、本審議会としては異存ないということとし、答申書の文面については会長である私に一任させていただきたいと思います。なお、正式な認定や取り消しについては、答申書の内容を踏まえた上で、道庁において決定や公表を行うこととなっておりますので、御承知願います。

それでは議事の(3)、「その他」となりますが事務局から何かございますでしょうか。

【山本主幹】

ないです。

【貴島会長】

それでは、本日の議題は全て終了しましたが、全体を通して何かございますでしょうか？

～委員から異論の声等なし～

【貴島会長】

なければ、皆様のご協力で円滑に議事を進行することができました。議事が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

【牧野農産振興課長】

はい。以上をもちまして本日予定しました議事全て終了いたしました。委員の皆様、長時間にわたりご審議いただきありがとうございます。閉会にあたりまして新井生産振興局長よりご挨拶申し上げます。

【新井生産振興局長】

はい。貴島会長、石井副会長始めまして委員の皆様方におかれましては長時間にわたりましては、御審議いただきましてどうもありがとうございました。本日ですね、御審議いただきました内容、結果を踏まえまして、道といたしまして優良品種認定などの最終的な手続きを進めてまいります。

昨今の国際状況行政を踏まえますと、この食料安全保障、安定供給の観点からも、今回御審議いただきました優良な品種のですね、種子を供給していくことがますます重要になっていくと考えております。道においては条例に基づきまして、優良品種の認定制度を始め、本道農業の発展の基本となる優良種子の安定供給に引き続き取り組んでまいりますので、委員の皆様方におかれましては、今後でもですね、御指導、御協力を賜りますようお願いを申し上げます。以上閉会の挨拶させていただきます。本日、誠にありがとうございました。

【牧野農産振興課長】

はい。では、以上をもちまして、本日の審議会は閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。